【米田主宰の俳句】

紅林檎

米田規子

ブイヤベース夏の終わりの水平線

晩夏晩節ひたひたと波寄せて

藤の実を垂らして保育園の午後

雷鳴やピアノ弾く手を止められず

二百十日がんもどきに味浸みて

虫の闇すとんと深きねむりかな

祈ること安らぎに似て紅林檎

九月の影濃く群衆のうねりかな

一位の実青年サッと席ゆずる

細腕にてノコギリを引く文化の日